

政友小学校・大野小学校で河川環境学習を開催しました。

政友小学校・大野小学校の全児童を対象に、水の循環について学習した後、伊予川で事前に捕獲された水生生物を観察し、身近な川の生物について学習しました。また、簡単な水質測定や透視度測定を体験し、水をきれいにする事の大切さを学びました。

【実施概要】

日 時：平成 24 年 11 月 4 日（日）10：00 ～ 11：00

場 所：伊予川芋炊き会会場

参加者：政友小学校 全児童	14 名
大野小学校 全児童	15 名
徳島県西部総合県民局（三好庁舎）	1 名
フジタ建設コンサルタント	4 名

内 容：1 水の循環（ゲーム）
2 指標生物による水質判定（水生生物観察、水質判定）
3 水の汚れの原因（水質判定：透視度、COD パックテスト）

【活動状況】

○「水の循環」の学習

水が循環する仕組みや地球上の海水と真水の占める割合について学びました。また、自分たちが水になって海、雲、川、湖、動物、植物、氷河、地下水、土の9つのポイントについて、サイコロを振りながら巡る旅を体験しました。サイコロを振るたびに歓声を上げながら、海→雲→湖→動物など各ポイントを移動し、水が個体や気体など姿を変えつつ地球上の様々な場所を巡っていることを学びました。



○指標生物による水質判定調査（水生生物観察、水質判定）

伊予川で事前に捕獲された魚や底生生物を観察し、自分たちで生物の名前を調べました。同じ川でも本流では、カワムツの稚魚など同じ種類の生物がたくさん捕獲されましたが、ワンド（水たまり）では、ドジョウやカマツカ、ヨシノボリなどの魚のほか、スジエビやコオニヤンマなどたくさんの種類が生息していることが分かりました。また、ワンド（水たまり）の水質を指標生物から判定するとややきれいな水と少し汚れた水に棲む生物がそれぞれ2種類ずつ捕獲されました。



○「水の汚れの原因」水質判定（COD パックテストによる水質測定、透視度測定）

伊予川の本流の水とワンド（水たまり）の水の透視度を測定しました。測定結果は、本流に比べワンド（水たまり）の水は透視度が低いことが分かりました。また、身近にある食品（みそ汁、牛乳、しょうゆ、ラーメンのスープ、焼き肉のたれの全5種類）を伊予川の水に混ぜてCODを測定し、比較しました。測定した結果、500mlの水に2〜3滴程度混ぜたものでも10〜1000mg/lとなり、食品によっては高い値を示すものもありました。このことから、残した食べ物を安易に流しや川に捨てることによって川がどれほど汚れてしまうかを知り、水質浄化のために自分達ができることを学びました。



水質調査結果表					透視度測定
COD測定					透視度測定
みそ汁	しょうゆ	しょうゆ	ラーメンのスープ	焼き肉のたれ	伊予川(本流)
0	0	0	0	0	125 cm
10	10	10	10	10	（基準値 5 cm）
20	20	20	20	20	伊予川(ワンド)
50	50	50	50	50	90 cm
100	100	100	100	100	（基準値 5 cm）
指標生物による水質判定					
きれいな水	ややきれいな水	きれいな水	きれいな水	とてもきれいな水	
水質指標 I	水質指標 II	水質指標 III	水質指標 IV	水質指標 V	
ヒラキアザシ	コシロアザシ	ミナコナリ	ヒメコナリ	ヒメコナリ	
ヒラキアザシ	オシロアザシ	タイコナリ	タイコナリ	タイコナリ	
ヤマトヒメ	ガンゾウタケ	イソコナリ	イソコナリ	イソコナリ	
ヤマトヒメ	コシロアザシ	ミナコナリ	ミナコナリ	ミナコナリ	
ヤマトヒメ	ヒラキアザシ	ヒル	ヒル	ヒル	
ヤマトヒメ	スジエビ	ニホンドロコエビ	ニホンドロコエビ	ニホンドロコエビ	
ヤマトヒメ	ヤマトヒメ	タニシ	タニシ	タニシ	
ヤマトヒメ	ヤマトヒメ	ヤマトヒメ	ヤマトヒメ	ヤマトヒメ	